

Branch Spirit

関西支部

灘酒プロジェクト「灘の生一本」 灘酒研究会 酒質審査委員会の活動

明石 貴裕

「酒どころ 灘」は、兵庫県の神戸市東部から西宮市に至る大阪湾に面した沿岸地域で、日本有数の日本酒生産地です。灘酒研究会は、この「灘」地域の醸造技術者が集まり、日本酒醸造の技術向上に取り組んでいる組織です。1917年（大正6年）に発足し、2017年には100周年を迎える歴史ある日本酒の研究会です。会員は正会員80名、特別会員（官学の学識研究者）23名、名誉会員1名、団体会員4団体です（2016年4月）。

灘酒研究会 酒質審査委員会

灘酒研究会は、さらなる灘酒のアピールを行うためには、どのような活動が必要かを検討してきました。そのなかで、醸造技術者の集まりである灘酒研究会がこだわるのは、やはりお客様に安心して手に取っていただける灘酒を提供することであると考えました。さらに、お客様がお酒を選ぶ際に、お酒の香味の特長（酒質）をわかりやすく伝えることが大事であることに行きつきました。「酒どころ 灘」では各蔵元が高い技術を継承し、日夜酒造りに励んでおり、蔵ごとに個性のある日本酒を取売しています。お酒の特長は各蔵が独自の基準で表現していますが、灘全体の高い品質をさらにアピールするには、灘で統一した酒質表現が必要であると考えました。そこで、2011年に灘酒研究会酒質審査委員会を発足させ、酒質が適正かつお客様にわかりやすい表現であることを審査認定することで、灘全体での高い品質アピールにつなげる取組みをスタートさせました。

酒質審査・推奨マーク

審査方法の構築では、まずさまざまに用いられていた酒質表現を統一することから始めました。お客様がイメージできる味や香りの表現であるかを指標に、「すっきりした」など味に関して28種、「芳醇な香り」など香りに関して13種、合計41種の酒質表現を選び、その定義を統一しました。審査では各蔵元が表現したい酒質表現を申請し、この酒質表現が中身のお酒の味わいを適切に表しているかを酒質審査委員にて判定することとしました。一つひとつの酒質表現を統一基準に則り、適正で

あるかをじっくりと審査していきます。審査にて認定された酒質表現は、適正でお客様にもわかりやすい表現であり、ラベルへの記載が認められます。さらに、酒質審査に合格したものとして、推奨マーク（右図）の付与を認めることとしました。



灘酒プロジェクト「灘の生一本」

2011年、「元気に灘を盛り上げる」をスローガンに「灘酒プロジェクト」を開始しました。このプロジェクトは、統一ブランド商品を立ち上げ、「酒どころ 灘」のアピールを目指したものです。お酒は灘酒の代名詞でもある「灘の生一本」（灘で生まれた生粋の純米酒）を選びました。灘の参加蔵元8社が自慢の「灘の生一本」を醸造、それぞれのお酒の酒質表現を灘酒研究会 酒質審査委員会が審査認定を行い、統一ブランド「灘の生一本」が誕生しました。それぞれの蔵元の「灘の生一本」を統一基準により審査することで、蔵元の個性がさらにわかりやすくなりました。各蔵元の高い醸造、品質管理技術に加え、この灘酒研究会の酒質審査による酒質表現の保証により、これまで以上に灘酒のアピールをすることができました。我々醸造技術者からの新しいブランドアピールが ついに実現しました。現在、参加蔵元は9社に増え、2016年には6年目を迎えます。毎年10月の発売をたくさんのお客様が楽しみにされ、灘酒プロジェクト「灘の生一本」は確実に定着しています。今後も灘酒研究会 酒質審査委員会では、酒質審査方法の研究を継続し、さらなる灘酒の品質向上に努めていきます。2016年10月に発売します蔵元9社の個性ある「灘の生一本」をどうぞお楽しみください（<http://www.nada-ken.com/>）。



2015年灘酒プロジェクト「灘の生一本」